

授業科目名	リスクマネジメント論	担当教員	千賀 喜史
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年第3クォーター		
講義内容	<p>リスクとは経済的損失や事業の中断、停止、信用、ブランドイメージの失墜等、事業活動に望ましくない影響を与える可能性やその要因と定義する。組織経営の安定化を図りつつ、組織として存続、発展していくうえで障壁となるリスクを正確に把握し、事前に経済的かつ合理的な対策を講じることで、危険の発生を回避するとともに、危機発生時の損失を極小化するための活動をリスクマネジメントという。法令違反によるリスク以外にも、自然災害によるリスクや環境リスク、情報漏洩やシステムダウンのリスク、調達・物流リスクなどもある。そのためにも危機に直面し、緊急事態に至った場合に備えた取組みや実際の緊急事態対応に関するマネジメントのあり方に関して、過去の実例を交えながら学んでいく。</p>		
到達目標	<p>日常からリスクマネジメントをおこなうための備えとして、定期的なリスクアセスメントの実施が求められる。ではどのような体制で、どのような手法を用いながらアセスメントをおこなえばいいかを考えていく。</p> <p>① 過去に実際発生した事例に基づき、的確な対処ができるよう準備的考察をする能力が習得できる。</p> <p>② 伝統的なリスクマネジメントの手法を習得し理解できる。</p> <p>③ メンバー間の協働に基づきリスクアセスメントの手法を取得し実践できる能力が身につく。</p> <p>④ リスクとリスクマネジメントに関する意思決定の理論が習得できる。</p>		
授業計画	<p>実例を使用し受講生が自ら考える主体的、能動的な授業をおこなう。また、5-6人程度でロールプレイ式のグループワークをおこなう。各人が行政や企業、NPO、財団、市民代表などの役割を担い、意見を集約する方式で討議を深めていく。異なる役割を担うことで、立場の異なる組織の連携にどのように取り組めばよいか学んでいく。</p> <p>第1回 オリエンテーション、授業の全体像と進め方  第2回 サーベンスオックスレー法（SOX）制定の経緯  第3回 企業と社会に関するケーススタディ  第4回 グループワーク① 不祥事回避のための対策  第5回 メディア報道に対する批判的考察  第6回 自然災害発生時における行政の意思決定（外部講師）  第7回 グループワーク② リスクマネジメントの体制構築  第8回 民間企業による事業リスクマネジメント（ERM）の意義、特徴  第9回 自治体によるリスクマネジメントの意義、特徴  第10回 事業継続計画（BCP）の作成  第11回 グループワーク③ 緊急事態時の顧客（市民）、メディア等への対応を含めたリスク管理体制  第12回 統合型リスクマネジメントと個別型リスクマネジメント</p>		

事前・事後 学習	連日のように報道される企業の不祥事などに注目し、その事件（事案）はなぜ発生してしたかその背景について関心をもつこと。また、今後同様の事案が発生した場合に初動においてどのような対応が求められるか、日ごろから考える訓練をすること。
テキスト	特定の教科書は利用せず、各回プリント教材を配布する。
参考文献	『失敗の科学』マシュー・サイド（有枝春訳）、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2016年
成績評価 の基準	① 各回の講義での発言やクラス貢献度(30%) ② グループ討議での貢献(30%) ③ 課題レポート(40%)
履修上の注意 履修要件	「組織マネジメント論」を合わせて履修することで、多角的な組織論の獲得と応用につながる。
実践的教育	経営分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	質問等は講義前後、またメールにて受付する。（講義初回に周知）